

第3期ロジスティクス環境会議
第4回企画運営委員会

2009年11月13日(金)15:00~17:00
(社)日本ロジスティクスシステム協会 大会議室

次 第

1. 開 会
2. 報 告
 - 1) 2009年度参加メンバー企業について
 - 2) 第3回本会議について
3. 議 事
 - 1) 研究会、委員会の活動内容について
 - (1) グリーン物流研究会
 - (2) 包装の適正化推進委員会
 - (3) グリーン物流推進のための取引条件検討委員会
 - (4) グリーンロジスティクスチェックリスト調査
 - (5) 省エネ法実態調査
 - 2) 鉄道へのモーダルシフト促進に関する要望について
 - 3) 情報提供活動について
 - (1) シンポジウム、講演会等のイベントについて
 - (2) CGLニュース、ジャーナルについて
 - 4) 2010年度以降の活動について
 - 5) その他について
4. 閉 会

【配布資料】

- | | | |
|-------|--------------------------|---------------------------------|
| 資料1-1 | : 第3期ロジスティクス環境会議 | 2009年度参加メンバー企業について |
| 資料1-2 | : 第3期ロジスティクス環境会議 | 組織体制 |
| 資料1-3 | : 第3期ロジスティクス環境会議 | 参加企業一覧 |
| 資料1-4 | : 第3期ロジスティクス環境会議 | 第3回本会議について |
| 資料2-1 | : 第3期ロジスティクス環境会議 | 研究会、委員会の活動方針、活動内容、及び活動計画(案)について |
| 資料2-2 | : 第3期ロジスティクス環境会議 | 調査関係の活動について(案) |
| 資料3 | : 「鉄道へのモーダルシフト」促進のための要望 | 活動結果の報告 |
| 資料4 | : 情報提供に関する活動内容、及び活動計画(案) | |
| 別紙1 | : シンポジウム、講演会等のイベントの結果報告 | |
| 別紙2 | : CGLニュースの配信結果 | |
| 別紙3 | : CGLジャーナル第3号の編集企画(案) | |
| 資料5 | : 2010年度以降の活動について(案) | |
| 資料6 | : 第3期ロジスティクス環境会議 | 2009年度スケジュール(案) |

(裏面に続く)

- 参考資料1-1 : グリーン物流研究会 2009年度活動実績、及び活動計画 (案)
- 参考資料1-2 : グリーン物流研究会 講演概要 (第13回会合の例)
- 参考資料2-1 : 包装材のフロー 基本モジュール
- 参考資料2-2 : 「包装材のフロー 基本モジュール」のフロー番号対応表
- 参考資料2-3 : 基本モジュールの組み合わせによる包装材のフローイメージ図の一例
- 参考資料2-4 : 基本モジュールの組み合わせによる包装材のフローイメージ図の一例について
- 参考資料2-5 : 包装材の投入量の標準的算定方法について (案)
- 参考資料2-6 : 包装材における排出フロー (案)
- 参考資料3 : 時間指定の見直しによるCO₂削減に係わる調査 追加調査事例 整理表
- 参考資料4 : 第3回企画運営委員会 議事録

以 上

第3期ロジスティクス環境会議
2009年度参加メンバー企業について

1. メンバー企業数の概況

図表1 メンバー企業数の推移

	社数
2008年度末メンバー企業数	97
2009年度非継続メンバー企業数	13
2009年度新規参加メンバー企業数	2
参加企業メンバー数(2009年11月13日現在)	86

2. 2009年度非継続メンバー企業について

図表2-1 2009年度非継続メンバー企業一覧(社名50音順)

No	会社名	所在地*1	08年度所属組織			過去参加状況	
			グリーン研究会 (90)*2	包装委員会 (26)*2	取引条件委員会 (50)*2	第1期 (109)	第2期 (97)
		愛知	○	—	—	○	○
		東京	○	—	—	○	○
		千葉	—	—	—	○	○
		東京	○	○	—	—	○
		東京	○	—	—	○	○
		大阪	○	—	—	○	○
		大阪	○	○	—	—	○
		東京	—	—	—	○	○
		神奈川	○	—	○	○	○
		静岡	—	—	—	○	○
		静岡	○	—	—	—	○
		東京	○	—	—	○	○
		東京	○	—	○	—	—

*1 当該企業における主な登録メンバーの勤務先所在地

*2 カッコ内は2008年度末時点の登録メンバー数

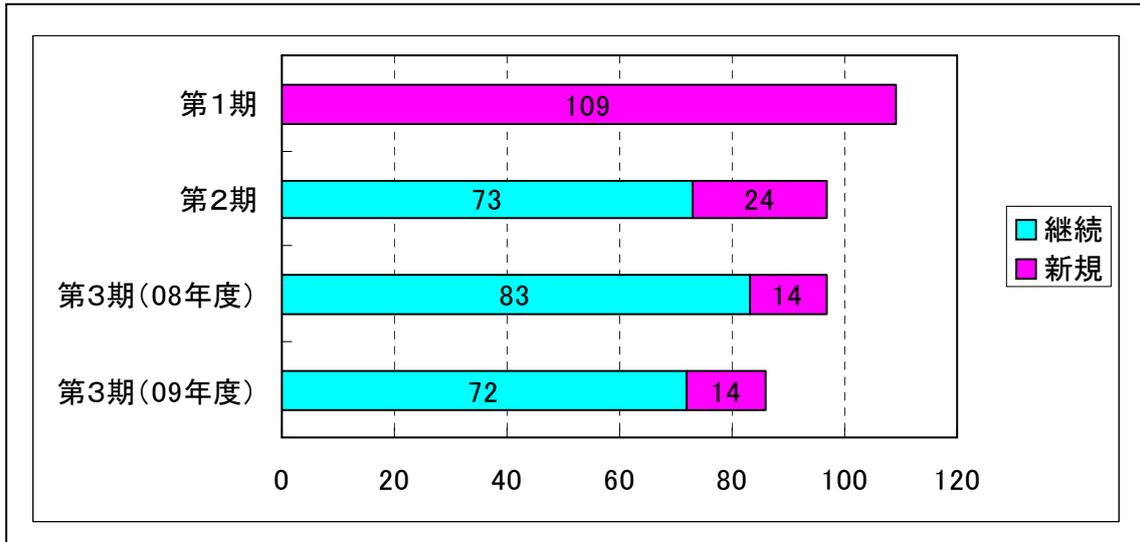
図表2-2 非継続理由

	社数
経費削減	10
社内事情	2
その他	1

図表2-3 地域別メンバー数の推移

	2008年度末	2009年度 非継続	2009年度 新規	参加企業 メンバー数
関東	76	8	2	70
中部	11	3	0	8
関西	9	2	0	7
九州	1	0	0	1

図表 2-4 第1期からの参加メンバー企業の推移 (グラフ)



図表 2-5 第1期からの参加メンバー企業メンバーの推移

	合計	内訳		前期からの継続率
		継続	新規	
第1期	109		109	
第2期	97	73	24	67.0%
第3期(08年度)	97	83	14	85.5%
第3期(09年度)	86	72	14	74.2% (第2期からの継続率)

* 第3期の新規14社のうち、2社は第1期参加、第2期非継続企業

図表 2-6 3期継続参加

	社数	継続率
3期継続参加	55	50.4%

3. 2009年度新規参加メンバー企業について

図表 3 2009年度新規参加メンバー企業

No	会社名	所在地	所属組織			過去参加状況	
			グリーン研究会	包装委員会	取引条件委員会	第1期	第2期
1	日本パレットレンタル	東京	—	○	○	—	—
2	日立製作所	東京	○	—	—	○	○

以上

議長: 三村 明夫(新日本製鐵(株) 代表取締役会長)
副議長: 岡部 正彦(日本通運(株) 取締役会長)
副議長: 鈴木 敏文(株イトーヨーカ堂 代表取締役会長 CEO)

**ロジスティクス
環境会議(本会議)**

メンバー: 86社

**企画運営委員会
(16名)**

委員長: 杉山 武彦
(一橋大学 学長)
副委員長: 増井 忠幸
(東京都市大学 環境情報学部 学部長)
副委員長: 高橋 信直
(新日本製鐵(株) 営業総括部 部長)
副委員長: 平野 由美子
(日本通運(株) 環境・社会貢献部 部長)

**グリーン物流研究会
(81名)**

幹事: 下村 博史(株日本総合研究所 総合研究部門 上席主任研究員)
副幹事: 鈴木 邦成(文化ファッション大学院大学 ファッションビジネス研究科 准教授)
副幹事: 山田 英夫(国分(株) 経営企画部 環境担当 課長)

**包装の適正化推進委員会
(24名)**

委員長: 増井 忠幸(東京都市大学 環境情報学部 学部長)
副委員長: 麦田 耕治(日本通運(株) 環境・社会貢献部 専任部長)

**グリーン物流推進のための
取引条件検討委員会
(48名)**

委員長: 山本 明弘(株日通総合研究所 物流技術環境部長 兼 環境グループ担当部長)
副委員長: 大山 茂夫(第一貨物(株) CS・環境対策 担当部長)
副委員長: 梅津 芳文(バンダイロジパル(株) 環境推進室 マネージャー)
副委員長: 小島 賢次(リコーロジスティクス(株) 営業本部 審議役)

**グリーンロジスティクス
チェックリスト調査WG**

幹事: 矢野 裕児(流通経済大学 流通情報学部 教授)
幹事: 菅田 勝(リコーロジスティクス(株) クオリティー(KAIZEN)アドバイザー
(株ロジスティクス革新パートナーズ 代表取締役))



**第3期ロジスティクス環境会議
第3回本会議について**

1. 日 時

2010年3月10日(水)

本 会 議： 15時00分～17時00分

懇親パーティー： 17時00分～18時30分

2. 会 場

東京・千代田区 ホテルニューオータニ 本館地下1F

本 会 議： 麗の間 (2009年3月10日開催の第2回本会議と同一の会場)

懇親パーティー： 翔の間

- * 当日の議事等については、2010年1月～2月に開催予定の第5回企画運営委員会で検討することとする。

以 上

第3期ロジスティクス環境会議 研究会、委員会の活動方針、活動内容、及び活動計画(案)について

研究会/委員会	活動方針	2008 年度活動内容	2009 年度活動計画（上部：実施済、下部：実施予定（計画））
<p>グリーン物流研究会 (登録人数：81名)</p>	<p>ロジスティクス分野における環境負荷低減活動を推進するため、グリーン物流に関する各種施策の実施事例等の情報交換等を通じて、実践的な改善施策を研究する。</p>	<p>1. 研究会（講演会形式） 7回開催</p> <p>2. 施設見学会 1回開催</p> <p>3. その他</p> <p>1) メンバー記入表の作成及び配布（新規） 研究会への参加目的、グリーン物流に関する課題等を各メンバーにご記載いただくとともに、その内容を全メンバーに配布することで、メンバー相互の人的交流の一助としていただいた。</p> <p>2) アンケートの実施 2008年度の活動の評価と反省のために実施した「2008年度活動アンケート」含めて、計8回実施</p> <p>3) ブログによる情報発信</p> <p><アウトプット> 『2008年度 グリーン物流研究会 活動報告書』</p>	<p>1. 研究会（講演会形式） 5回</p> <p>1) 第9回研究会 テーマ「エコ包装」、「省エネ法（工場・事業場）」（44名）</p> <p>2) 第10回研究会 テーマ「カーボンフットプリント」（50名）</p> <p>3) 第11回研究会 テーマ「循環型社会構築に向けて」（66名） *公開制研究会としてメンバー外にも公開して実施</p> <p>4) 第12回研究会 テーマ「共同回収」、「サプライチェーン省資源化に向けて」（43名）</p> <p>5) 第13回研究会 テーマ「省エネ法（輸送に係る措置）」（42名）</p> <p>2. その他</p> <p>1) 講演概要のメール送付（新規）</p> <p>2) 各会合後にアンケートの実施</p> <hr/> <p>1. 研究会（講演会形式） 2回</p> <p>1) 第15回研究会 テーマ「グリーン物流P推進事業」、「循環型社会構築に向けて」</p> <p>2) 第16回研究会 テーマ「将来を見据えたテーマ」</p> <p>2. 施設見学会 1回</p> <p>1) 第14回研究会 積水ハウス株式会社 関東工場 資源循環センター</p> <p>3. その他</p> <p>1) 講演概要のメール送付（継続）</p> <p>2) 総括アンケートの実施</p> <p><アウトプット> 『2009年度 グリーン物流研究会 活動報告書』 *各会合の講演概要、幹事のコメント、配布資料を取りまとめ、各社において事例研究の参考としていただく</p>

研究会/委員会	活動方針	2008 年度活動内容	2009 年度活動計画（上部：実施済、下部：実施予定（計画））
包装の適正化推進委員会 （登録人数：24名）	<p>物流の主要な1機能である「包装」の適正化による環境負荷低減に向け、荷主企業と物流企业等の課題を整理した上で、解決策を検討する。</p> <p>さらに必要に応じて企業、行政、団体等の関係者への提言を行う。</p>	<p>1. 活動内容の検討</p> <p>1) 「活動内容アンケート」を実施</p> <p>2) 上記アンケート結果を基に活動内容を検討 ⇒「包装に関わる環境パフォーマンスの算定」に関する検討を行う。 その中でも、特に委員の関心の高い「CO₂への換算」に向けた検討を行う。</p> <p>2. 包装に関わる環境パフォーマンスの算定についての検討</p> <p>1) 「包装に関わる環境パフォーマンスの算定に関する調査」の実施 各社における包装に関わる環境パフォーマンス算出状況等について確認 ⇒パフォーマンス算定に必要な基データもあまり捉えられていない実態</p> <p>2) 「サプライチェーンにおける包装材の流れのイメージ図（案）」の策定 ⇒様々な主体においてある程度“読み替え”ができるようなコメントの追記等の修正が必要</p> <p>3) CO₂換算に向けた検討</p> <p>(1) CO₂排出原単位の整理 だれでも入手可能な原単位の情報収集</p> <p>(2) 投入量、排出量の標準的算出方法の検討 ワンウェイ、リターナブルの投入量における標準的算出方法の検討</p>	<p>1. 包装に関わる環境パフォーマンスの算定についての検討</p> <p>1) 包装材のフロー基本モジュールの策定 「包装材のフロー 基本モジュール」、「基本モジュールの組み合わせ例」を策定</p> <p>2) 包装材の投入量における標準的算出方法の検討 ワンウェイ、リターナブル各々について、総量、原単位等として捉えるべき指標を整理</p> <p>3) 包装材の排出量における標準的算出方法の検討 (包装材に限定せずに) 廃棄物等の流れ、及び廃棄物処理法等で規定されている排出量等の届出内容の確認 ⇒①分別等により有価物にする取組、②廃棄物であっても、リサイクル（・リユース）する（まわす）取組の評価ができるような算出方法の検討の必要性</p> <p>4) その他 レンゴー株式会社 新京都事業所 見学会</p> <hr/> <p>1. 包装に関わる環境パフォーマンスの算定についての検討</p> <p>1) 包装材の投入量における標準的算出方法の検討 算出単位（素材別重量ベース、重量ベース、数量ベース、金額ベース）について、活用用途、算出容易性等を考慮した整理・検討</p> <p>2) 包装材の排出量における標準的算出方法の検討 標準的算出方法の検討</p> <p>3) CO₂排出原単位の整理</p> <p><アウトプット例> 『輸送包装に関わる環境パフォーマンス算定ガイド』（仮称） ＊本ガイドを参照し、輸送包装に関わる環境パフォーマンス算定を実施いただく。 行政等への意見・要望</p>
グリーン物流推進のための取引条件検討委員会 （登録人数：48名）	<p>環境負荷と経済効率を考慮した物流に係る取引条件のあり方について、発荷主、着荷主、物流事業者間で課題を共有し、解決の方向性、方策を検討する。</p> <p>さらに必要に応じて企業、行政、団体等の関係者への提言を行う。</p>	<p>1. 活動内容の検討</p> <p>1) 「活動内容アンケート」を実施</p> <p>2) 物流に係る取引条件を検討するねらい（含む過去の検討成果）の確認</p> <p>3) 上記アンケート結果を基に活動内容を検討 ⇒「時間指定」をテーマに検討を行う。</p> <p>2. 「時間指定」が環境負荷に与える影響等についての検討</p> <p>1) 「時間指定に関するアンケート調査の実施」 ①着荷主、②発荷主、③物流事業者それぞれの立場における「時間指定」の捉え方等について確認</p> <p>2) 主な検討対象の審議 当委員会での主な検討対象を決定するために、業種等により「時間指定の分類・整理表」を策定するとともに、同表を参考として、検討対象を審議</p> <p>3) 時間指定の見直しによるCO₂改善効果の算出等に向けた調査項目の検討 ⇒CO₂改善効果の算出については、一部委員にデータ等の御協力いただく形での調査実施を決定 ⇒上記とは別に、委員各社において時間指定の見直しを実施できた要因等に関する調査実施を決定</p>	<p>1. 「時間指定」が環境負荷に与える影響等についての検討</p> <p>1) 時間指定の見直しによるCO₂改善効果の算出等について 「グリーン物流パートナーシップ ソフト支援事業 中継物流の共同化」の報告</p> <p>2) 時間指定の見直しによるCO₂削減に係るアンケート調査（1次調査、追加調査） ①事例内容、②取組による時間指定等の差異、③CO₂等の効果、④実施にあたり調整した項目、⑤取組がすすんだ要因、⑥実施後に生じた課題等について収集 ⇒事例編として取りまとめ</p> <p>3) 民間同士では進まない事項（合理性のある時間指定）に対する解決策の検討 価格メカニズムや着荷主側でのCO₂排出量算定の動き（都条例）等について検討</p> <hr/> <p>1. 「時間指定」が環境負荷に与える影響等についての検討</p> <p>1) 事例編の整理</p> <p>2) 民間同士では進まない事項（合理性のある時間指定）に対する解決策の検討</p> <p><アウトプット例> 『時間指定の見直しによるグリーン物流推進ガイド』（仮称） ＊本ガイドを参照し、各社において時間指定設定の合理性を考えるきっかけとしていただく。 行政等への意見・要望</p>

第3期ロジスティクス環境会議 調査関係の活動について（案）

1. グリーンロジスティクスチェックリスト調査

1) 目的

第2期CGLで策定した「グリーンロジスティクスチェックリスト」の普及等を通じて、ロジスティクス分野における環境負荷低減活動を推進する。

具体的には、本チェックリストに網羅されている「物流・ロジスティクスにおける環境負荷低減活動項目」の取組状況を集計・分析するとともに、回答企業に対して、集計結果（全体平均、業種平均と貴社回答）等を整理した簡易診断結果を返却することにより、自社の現状の取組度合いを確認いただき、今後の取り組みを進める際の参考資料としていただくことを目的としている。

2) 検討組織

グリーンロジスティクスチェックリスト調査WG

3) 第2回本会議以降の活動経過

(1) CGLジャーナル第2号での紹介（2009年3月24日発行）

2009年2月12日に開催した「グリーンロジスティクスチェックリスト調査 結果報告会」の内容紹介

(2) J I L S機関誌4・5月号（2009年4月30日発行）への掲載

(1) の内容を掲載

(3) 会員研究会「グリーンロジスティクスのすすめ」内での紹介（2009年5月開催：4拠点）

- ・グリーンチェックリスト調査及び回答結果等について紹介
- ・参加者へCGLジャーナル第2号の配布

（参考） 会員研究会 結果

開催地	開催日	参加	
		人	企業
大阪	2009年5月14日（木）	63名	40社
福岡	2009年5月15日（金）	18名	12社
東京	2009年5月25日（月）	59名	46社
名古屋	2009年5月29日（金）	32名	21社

(4) 09年度調査に向けた検討

- ①より有益な情報提供、②サンプル数の拡大等ができるように下記の見直し・修正を実施
 - ・参考情報欄の追記、修正（86項目中45項目）
 - 08年度調査で回答者から質問があった項目に対する説明の追記
 - 行政機関等が新たに作成したマニュアル等の追加

(グリーン物流パートナーシップ 推進事業 事例集、
物流省エネ事例集 (北海道経済産業局) 等)

- ・フェイスシートの従業員数、売上高区分の見直し
- ・08年度回答企業に対し、08年度回答内容の添付した形での調査依頼
- ・調査依頼書面の作成

(5) 調査実施 (2009年9月24日～11月13日)

(対象)

- ・環境会議メンバー
- ・J I L S会員
- ・グリーンロジスティクスエキスパート講座等、J I L S催事参加者
- ・環境担当部門、CSR部門、エコアクション21認証企業

4) 今後の予定

(1) 結果集計 (～2009年12月中旬)

(2) 簡易診断結果の送付 (～2009年12月末)

回答者に診断結果を送付 (原則としてメール送付)

(3) 2009年度グリーンロジスティクスチェックリスト調査 結果報告会の開催 (2010年2月)

集計結果の報告に加え、チェックリスト (含む簡易診断結果) を活用した取り組み等の紹介を目的に実施。

2. 省エネ法実態調査

1) 目的

省エネ法で特定荷主、特定輸送事業者を作成、提出が義務付けられている定期報告書、計画書を収集し、環境会議メンバーにおけるエネルギー使用量や判断基準の遵守状況等の概況を集計、分析する。

なお、本調査は、今年度で3回目となることから、可能な範囲で経年変化の比較も行うこととする。

2) これまでの活動経過

(1) 調査実施 (2009年8月7日～9月10日)

(2) 結果集計 (2009年9月10日～10月13日)

(3) 結果報告 (2009年10月14日～)

- ・環境会議ホームページに集計結果の概要版を掲載 (2009年10月14日)
- ・回答者への結果報告 (2009年10月14日)
- ・第13回グリーン物流研究会での結果報告 (2009年10月21日)
- ・第9回包装の適正化推進委員会での概要版の配布 (2009年10月23日)
- ・環境会議メールマガジン「CGLニュース vol.38」に紹介 (2009年10月30日)

以 上

「鉄道へのモーダルシフト」促進のための要望_活動結果の報告

◆要望書提出までの経過(確認)

- ①2007年12月20日 第1回 JR 貨物殿への要望及び意見交換
- ②2008年2月7日 第2回 JR 貨物殿意見交換
- ③2008年2月29日 第3回 JR 貨物殿意見交換
- ④2008年3月7日 JR 貨物(経営企画室)殿より文書でご回答あり
- ⑤2008年4月8日 第1回国土交通省(政策統括官付)殿意見交換
- ⑥2008年4月25日 第1回 JR 貨物(経営企画室)殿・国土交通省(政策統括官付、鉄道局、環境政策課)殿との合同意見交換
- ⑦2008年6月17日 国土交通省(政策統括官付)殿から、関係各部署(鉄道局、環境政策課)に対しても要望書を提出されては如何かとの連絡が入る
(当初の想定では、政策統括官付のみ)
- ⑧2008年6月19日 JR 貨物(経営企画室)殿から、要望書を文書のかたちで受領することに対し社内からの抵抗が強く、難攻しているとの連絡が入る(出来れば文書のかたちでは受領したくない、とのニュアンスあり)
- ⑨2008年6月26日 第1回企画運営委員会(本委員会)において上記の状況を報告
今後の対応について、CO₂削減推進委員会_モーダルシフトWGの幹事らに一任される
- ⑩以降 JR 貨物(経営企画室)殿と断続的に協議。文書を受領したくない旨繰り返される
- ⑪2008年11月13日 JR 貨物(経営企画室)殿と協議。国土交通省(政策統括官付)が同席次の事項が決定
- ・ JR 貨物殿には要望書を出さない
 - ・ 国土交通省の鉄道貨物輸送関連部署に要望書を出す
 - ・ 要望書には JR 貨物殿に対する要望内容を含む
 - ・ 国土交通省の具体的な提出先は、今後、政策統括官付と相談の上、決定する
- ⑫2008年11月20日 第2回企画運営委員会(本委員会)において上記の決定事項を報告
- ⑬以降 国土交通省側と最終調整
- ⑭2009年1月26日 国土交通省関係3部局へ提出
(政策統括官、総合政策局 環境政策課 地球環境政策室、
鉄道局 総務課 貨物鉄道政策室)
- *なお、提出時に、JR貨物含めた情報交換会を開催したい旨の要請を行ったところ、国土交通省3部局には了承いただいた。
- ⑮2009年3月10日 第2回本会議
「企画運営委員会」活動の一環として
- ①関係行政、JR貨物殿との定期的な情報・意見交換会の実施
 - ②その他の関係者(全国通運連盟殿、鉄道貨物協会殿など)との意見交換を検討することが了承。

◆その後の経過

①「有識者との意見交換会」の発足

国土交通省鉄道局（要望書の提出先の1つ）にて、「貨物鉄道のインフラ整備に係るグランドデザインに関する検討会」及び「有識者との意見交換会」の設置がなされるとともに、「有識者との意見交換会」について、本要望書をまとめたメンバーを中心とした環境会議メンバーの参加の相談を受け、メンバー選定・打診等を実施。

②第1回意見交換会への参加（2009年7月17日（金））

検討会及び意見交換会の目的、各メンバー企業での鉄道輸送の利用状況と課題等について意見交換実施。

③第1回検討会への参加（2009年8月20日（木））

検討会及び意見交換会の目的の説明、鉄道輸送の概況の報告、目標年次の設定及びインフラ整備必要量の推定方法の検討。

④第2回検討会への参加（2010年1月6日（水）予定）

目標年次の設定及びインフラ整備必要量の検討ほか（予定）。

⑤第2回意見交換会への参加（日程未定）

以 上

情報提供活動に関する活動内容、及び活動計画（案）

1. シンポジウム、講演会等のイベントについて

1) 概要

環境会議全メンバーを対象に、委員会の活動成果等に関する情報発信、もしくは研究会、委員会ではとりあげていないテーマに関する情報提供等を目的に実施。

2) 第2回本会議以降の活動内容

(1) 公開制研究会「循環型社会構築を考える」の開催 **（別紙1参照）**

日 時：2009年8月7日（金） 13:30～16:40

会 場：アイビーホール青学会館／東京・渋谷区

参加人数：66名

*第11回グリーン物流研究会をメンバー外にも公開する形で実施

3) 今後の活動計画（案）

(1) 2009年度グリーンロジスティクスチェックリスト調査 結果報告会

日 時：2010年2月（予定）

概 要：集計結果の報告に加え、チェックリスト（含む簡易診断結果）を活用した取り組み等の紹介を目的に実施

2. 媒体を通じた情報提供について

1) 『CGLニュース』と『CGLジャーナル』による発信

本会議をはじめ、研究会、委員会の活動経過、各種催事、行政動向等について、以下の媒体を用いて、情報発信を実施。

2) 第2回本会議以降の活動内容

(1) 『CGLニュース』（電子メール）

行政からの報道発表等を中心とした速報的内容について17号配信（2009年11月13日時点）

（詳細は別紙2参照）

(2) 『CGLジャーナル』（冊子）

Vol.2 2009年3月24日

・グリーンロジスティクスチェックリスト調査 結果報告

(3) その他

i) J I L S機関誌「ロジスティクスシステム」

・2009年4・5月号「グリーンロジスティクスチェックリスト調査 結果報告会」

・2009年4・5月号「TEA TIME」

・2009年10・11月号「特集 循環型社会構築を考える

～ロジスティクス環境会議 グリーン物流研究会より～

*前述の公開制研究会、及び第12回グリーン物流研究会の講演内容を掲載

ii) ロジスティクス強調月間2009 パンフレット

グリーンロジスティクスチェックリスト調査を中心とした取組を紹介

3) 今後の活動計画 (案)

(1) 『CGLニュース』(電子メール)

引き続き、月2回程度の配信実施

(2) 『CGLジャーナル』(冊子)

Vol.3 2010年1月(予定) (詳細は別紙3参照)

・環境教育

Vol.4 2010年3月末(予定)

・第3回本会議 結果報告

以 上

シンポジウム、講演会等のイベントの結果報告

1. 公開制研究会「循環型社会構築を考える」

1) 結果概要

- 日 時：2009年8月7日（金） 13:30～16:40
- 会 場：アイビーホール 青学会館／東京・渋谷区
- 参加料金：環境会議メンバー企業 : 無 料
メンバー以外
 - J I L S 会員企業 : 10,500 円（1名：消費税込み）
 - J I L S 非会員企業 : 21,000 円（1名：消費税込み）
- 参加人数：66名
- 主 催：(社)日本ロジスティクスシステム協会 ロジスティクス環境会議

2) プログラム

時刻	内容
13:30～13:35	開 会 ロジスティクス環境会議 グリーン物流研究会 幹事 (株式会社日本総合研究所 総合研究部門 上席主任研究員) 下村 博史 氏
13:35～14:30	基調講演 「資源循環型社会構築に向けた展望」 ●現在の廃棄物処理・リサイクルの状況の概観 ●新しい資源循環レジームの構築 ●静脈物流ビジネスの意味 慶應義塾大学 経済学部 教授 細田 衛士 氏
14:30～14:40	休憩
14:40～15:35	事例 1 「循環型リサイクルシステムの紹介 —エコサークル®の具体例—」 ●帝人(株)の環境に対する考え方 ●エコサークル®の仕組み ●エコサークル®の具体例 帝人ファイバー株式会社 マーケティング部 部長 大河原 茂 氏
15:35～15:45	休憩
15:45～16:40	事例 2 「総合物流事業による地域社会への貢献 —循環型社会の構築を目指して—」 ●会社概要、環境取り組み概要 ●リサイクル事業への取り組み ●今後の展開 横手運送株式会社 代表取締役 塩田 謙三 氏
16:40	閉 会

* 役職は開催時点のもの

以 上

CGLニュースの配信結果

Vol.23 2009年3月16日

- ・第3期ロジスティクス環境会議 第2回本会議開催報告
- ・「3Rまなびあいぶっく」の発行について（環境省）

Vol.24 2009年3月19日

- ・平成21年度「グリーン物流パートナーシップ推進事業（普及事業）」
3月31日より申請受付開始（グリーン物流P会議）
- ・平成20年度「食品リサイクル推進環境大臣賞」の決定（環境省）
- ・「食品残さのリサイクルから地域循環圏を考えるシンポジウム」
（環境省 中部地方環境事務所）

Vol.25 2009年3月25日

- ・平成20年度グリーン物流パートナーシップ推進事業が決定（グリーン物流P会議）
- ・エネルギー白書2008を公表（経済産業省 資源エネルギー庁）
- ・CGLジャーナルⅢ 第2号発刊
- ・「サプライチェーン省資源化モデル大賞」の決定、及びサプライチェーン省資源化連携促進事業事例集の公表について（経済産業省）
- ・省エネ化と「省エネ産業」の展開に関する研究会の報告書の公表について（経済産業省）

Vol.26 2009年4月1日

- ・低公害車等の導入等に係る補助制度のご案内（国土交通省）
- ・3R活動先進事例集の公表（3R活動推進フォーラム）

Vol.27 2009年4月9日

- ・「新たな温室効果ガス削減環境事業モデル」の新規募集について（国土交通省）
- ・公開制研究会/JILS 会員参加無料！ グリーンロジスティクスのすすめ（JILS）

Vol.28 2009年4月15日

- ・温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度による平成19（2007）年度温室効果ガス排出量の集計結果の公表について（環境省、経済産業省）
- ・「改正省エネ法（工場・事業場）に関する企業向け説明会」について（経済産業省）
- ・「バイオ燃料持続可能性研究会」報告書について（経済産業省）

Vol.29 2009年4月28日

- ・平成21年度自動車環境配慮推進事業の募集について（環境省）
- ・「オゾン層観測報告：2008」を公表（気象庁）

Vol.30 2009年5月1日

- ・バイオ燃料地域利用モデル実証事業の事業実施地区決定について（農林水産省）
- ・2007年度（平成19年度）の温室効果ガス排出量（確定値）について（環境省）
- ・平成21年度 物流連携効率化推進事業（新規）の公募受付中（国土交通省）

Vol.31 2009年5月25日

- ・平成21年度エコドライブコンテストについて
- ・第18回「エコルールマーク」の認定について（国土交通省）
- ・使用済携帯電話回収促進キャンペーンについて（総務省、経済産業省、環境省）

Vol.32 2009年6月22日

- ・平成21年度グリーン物流パートナーシップ普及事業 推進決定について（グリーン物流P会議）

- ・グリーン物流パートナーシップ推進事業 事例集の公表（グリーン物流P会議）
- ・平成 21 年度「物流連携効率化推進事業」の認定について（国土交通省）
- ・「“はこんでもうける” 物流省エネ事例集 in 北海道」について（北海道経済産業局）

Vol.33 2009年7月9日

- ・営業倉庫、トラックターミナル等における省エネ設備・技術導入計画の二次募集について（国土交通省）
- ・「公開制研究会 循環型社会構築を考える」のご案内（CGL）

Vol.34 2009年7月24日

- ・総合物流施策大綱（2009-2013）及び総合物流施策推進プログラムについて（経済産業省、国土交通省）
- ・平成 21 年度省エネ大賞の公募開始 今年度から募集対象が拡大（経済産業省）
- ・「産廃情報ネット」新サービスがスタート（財団法人産業廃棄物処理事業振興財団）

Vol.35 2009年8月3日

- ・平成 21 年度「グリーン物流パートナーシップ推進事業（普及事業）」
2次募集の申請受付開始（グリーン物流P会議）
- ・平成 21 年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰について（環境省）
- ・平成 21 年度省エネルギー普及のための人材研修 参加者募集中！（資源エネルギー庁）
- ・「環境問題に関する世論調査」結果を発表（内閣府）

Vol.36 2009年8月27日

- ・グリーン物流パートナーシップ 優良事業の募集について（国土交通省）
- ・グリーン物流パートナーシップ 優良事業の募集について（経済産業省）
- ・カーボンフットプリント制度試行事業用 CO2 換算量共通原単位データベース（暫定版）の公開について（CFP 制度試行事業事務局（社団法人産業環境管理協会））
- ・ペットボトルリユース実証実験の取りまとめについて（環境省）

Vol.37 2009年9月29日

- ・グリーンロジスティクスチェックリスト 2009 年度調査へのご協力をお願い
- ・一般廃棄物の排出及び処理状況等（平成 19 年度速報）について（環境省）
- ・プラスチック製容器包装の再商品化に伴う環境負荷の削減効果について（環境省）

Vol.38 2009年10月30日

- ・平成 21 年度グリーン物流パートナーシップ普及事業（2次募集）の決定について（グリーン物流P会議）
- ・平成 21 年度 3R 推進功労者等表彰について（3R 推進協議会）
- ・グリーンロジスティクスチェックリスト 2009 年度調査へのご協力をお願い
- ・省エネ法実態調査結果の公表について

Vol.39 2009年11月12日

- ・2008年度温室効果ガス排出量（速報値）の公表について（環境省）
- ・第 4 回日中省エネルギー・環境総合フォーラムにおける日中間の協力合意事項（経済産業省）
- ・ジメチルエーテル（DME）燃料を用いたトラックの実証運行試験の実施について（国土交通省）
- ・グリーンロジスティクスチェックリスト 2009年度調査へのご協力をお願い

以上

CGLジャーナル第3号の編集企画（案）

1. はじめに

環境教育に関しては、2003年に公布された「環境保全活動・環境教育推進法」、さらには、2002年のヨハネスブルグサミットで日本からの提案により国連で採択された「国連持続可能な開発のための教育（ESD：Education for Sustainable Development）の10年」（2005年～2014年）に向けて、関係各省等の取組が進められている。さらに、2007年に閣議決定された「21世紀環境立国戦略」では、持続可能な社会の実現に向けた重要戦略のひとつに「環境を感じ、考え、行動する人づくり」を掲げるとともに、同戦略の具体化を図るものとして「21世紀環境教育プラン」が提示された。

環境教育というと「学校」内での教育が想起されるが、上記「21世紀環境教育プラン」の中では、「学校」のみならず、「家庭」、「地域」、「企業・職場」といったあらゆる場において、環境教育の機会を拡大していくこととされている。

そこで、CGLジャーナル第3号では、物流・ロジスティクス分野に係る環境教育を進める際に活用できる内容を取りまとめた。

2. ねらい

物流・ロジスティクスに携わっている“企業”、“人物”が、次項で想定する対象者に対し、物流・ロジスティクスに関する環境教育を行うことにより、①物流・ロジスティクスへの理解、②環境に優しい行動の実践、を促すことをねらいとする。

なお、環境教育を実施する場としては、以下を想定する。

- ①家庭における環境教育（例 自分の子供に対する教育等）
- ②企業・職場での環境教育（例 学校への出前授業、見学受け入れ等）
- ③地域での環境教育（例 周辺地域住民への説明、地方自治体の環境委員としての広報等）

3. 主たる対象者

小学校5年生～中学生

*小学5年の社会科の学習指導要領の中で、**運輸**が取り上げられている。ただし、物流という語句は出てこない。

【参考】我が国の工業生産について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考えるようにする

- ・様々な工業製品が国民生活を支えていること。
- ・我が国の各種の工業生産や工業地域の分布など
- ・工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や**運輸**の働き

4. 構成イメージ

- 1) 環境問題
- 2) 物流と環境負荷
- 3) グリーン物流の取り組み
- 4) 私たちができること

以上

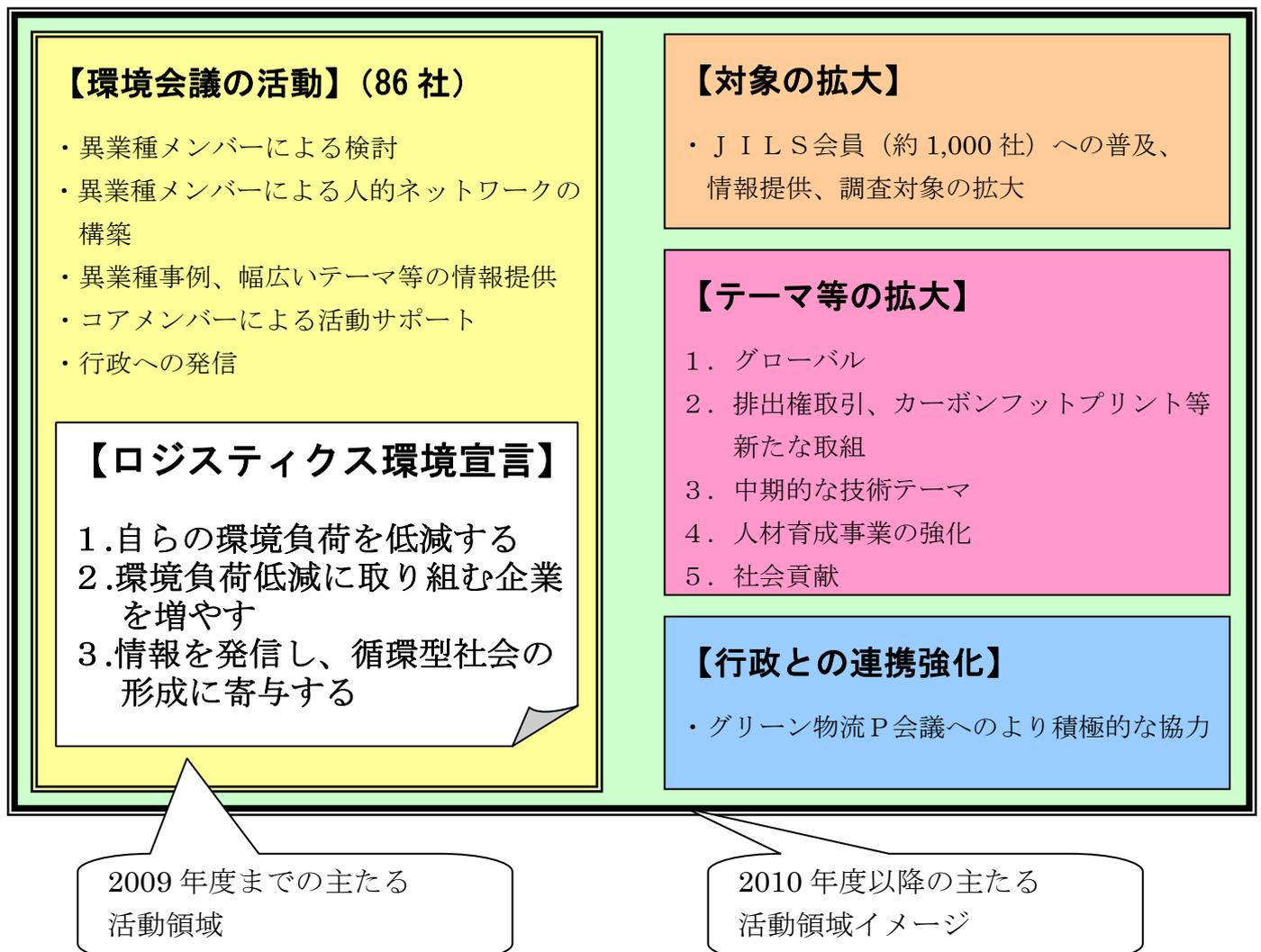
2010年度以降の活動について（案）

1. はじめに

ロジスティクス環境会議では、2003年11月設立以降、約6年にわたり、各委員会、研究会の活動を通じて、課題解決のためのツールの開発と普及、人的ネットワークの構築、省エネ法や鉄道へのモーダルシフト推進のための要望書提出など行政に対する提言活動、「ロジスティクス環境宣言」の採択など、ロジスティクス分野における環境負荷低減に向けた活動を進め、大きな成果をあげてきた。

今後、持続可能社会の実現に向け、中長期的な視点で考えると、温室効果ガス削減に向けた取組強化、資源需要の増大や天然資源の枯渇等による資源価格の高騰、最終処分場の残余容量のひっ迫等が予測され、物流・ロジスティクス分野での取り組みの重要性がますます高まる中、2010年度以降の活動について提案したい。

2. 2010年度以降の活動イメージ



3. 2010年度以降の活動について（案）

2010年度以降については、J I L S会員への情報提供、テーマ面の広がり、さらには行政との連携強化といったことを視野に入れた活動を推進するとともに、これまで、委員長、副委員長/幹事、副幹事、さらにはコアメンバー等とともに遂行してきた環境会議の活動をベースとしつつ、メンバーがより参加しやすい環境づくり等、満足度のさらなる向上や活動の充実を図り、ロジスティクス分野における環境負荷低減のための取組を進めていきたいと考える。

事務局として、以下を提案したい。

<2010年度の方針>

- J I L S会員を対象とした情報提供、テーマ面の拡大、グリーン物流パートナーシップ会議などへのより積極的な協力等、これまで以上に幅広い活動を推進する。
- 環境会議の活動の中核である、研究会、委員会活動は継続実施する。特に、運営面、参加者費用負担面（参加料の低減等）等を見直し、メンバーが、より参加しやすい環境づくりに注力する。
- 上記2点を総合的に鑑み、会議体での運営から、J I L Sの経常活動の一環として位置づけた活動を行う。

以 上

第3期ロジスティクス環境会議 2009年度スケジュール(案)

	本会議	企画運営 委員会	グリーン物流 研究会	委員会		WG	省エネ法 実態調査	イベント
				包装の 適正化	取引条件	チェックリスト 調査		
開催数	1回	2回	8回	8回	7～8回	3回		2回
4月					<調査>			
5月			26 第9回	26 第5回	19 第5回			
6月			24 第10回	19 第6回	25 第6回			
7月				17 第7回				
8月			7 第11回		4 第7回	18 第3回WG	<調査>	7 公開制
9月			16 第12回	10 見学会 16 第8回	30 第8回	<調査>	<集計>	
10月			21 第13回	23 第9回		↑	<報告>	
11月		13 第4回	24 第14回	27 第10回	19 第9回	↓		
12月			8 第15回	○第11回	○第10回	<集計> <結果返却>		
1月		○ 第5回	20 第16回	○第12回	○第11回			
2月								報告会
3月	10 第3回							

*委員会等のスケジュールについては、検討状況等により変更になる場合がございます。

以 上